

日體人

ホームページより登録会員情報の更新が可能です

【登録会員情報変更の方法】

1 同窓会 HP 右上の **会員登録・お問い合わせ** をクリック



2 「住所変更届け」「新規会員登録」「ご連絡の停止」「お問合せ」いずれかを選択し、情報を送信してください。



お問い合わせページへの直接アクセスはこちら



TEL & FAX でも受け付けています



TEL : 03-3704-0266



FAX : 03-3704-1817

※ TEL & FAX での変更等のご連絡の際は、登録番号をご準備のうえ、お問い合わせいただくとスムーズです。(登録番号は宛名シールに記載されています)

寄付金のお願い

学校法人日本体育大学は「体育」を通じて世界に貢献します。

ご支援をお考えの皆様へ

学校法人日本体育大学は1891年(明治24年)に創設以来、建学の理念である「體育富強之基」に則り、知育、徳育を育み、健康を増進し、日本・世界の平和と発展に貢献する学生・生徒を育成することを旨として取り組んでまいりました。

現在、本法人は日本体育大学、日本体育大学荏原高等学校、日本体育大学桜華高等学校、日本体育大学柏高等学校、浜松日体高等学校、日本体育大学附属高等支援学校、日本体育大学桜華中学校、浜松日体中学校、日体幼稚園、日本体育大学医療専門学校を設置し、学生・生徒数は約1万人を擁するまでになりました。

当法人および各設置校へのご支援いただいた寄付金は、本法人事業として、スポーツ選手強化・指導者育成や国際交流によるグローバルリーダー育成、教育研究環境の充実・発展や学生・生徒への奨学金などを目的とし、その成果を通じ、広く社会に貢献還元致します。

皆様からのご支援、ご協力が大きな支えとなりますので、是非ご賛同いただき、多くの方々のご寄付をお願い申し上げます。

寄付金お申込み方法

寄付金の詳細は、下記に記載のWebサイトをご覧ください。Webサイトでは、手続きに便利な「お申込みフォーム」を提供しています。ぜひご活用ください。Webサイトへは下記のURLからアクセス可能です。その他ご不明な点は「寄付金各種お問い合わせ」までご連絡ください。

※各設置校で個別に実施している寄付金事業については、各学校へお問い合わせください。



<https://www.gaku-nittai.ac.jp/donation.html>

ご寄付に対する税制上の優遇措置

当法人に対するご寄付は、税制上の優遇措置を受けることができます。必要となる書類は、寄付金の入金が確認でき次第、ご送付させていただきます。

寄付金に関するお問い合わせ

学校法人日本体育大学 法人事務局 総務部 経理課
〒158-0081 東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内
TEL : 03-3704-5201 FAX : 03-3704-3336
E-mail : kifu@gaku-nittai.ac.jp



にったいじん

「日體人」を揮毫させていただく光栄にあずかった。日体大は、体育・スポーツの指導者、研究者を育成する日本を代表する単科大学として歴史を積み重ねてきた。そのキャンパスで学んだ同窓は、エッサッサ、荏原体育を無心で演じてきた同志である。理不尽さに耐えつつ、常に夢を描き、犠牲的精神を発揮する習性を身につけた異色な人類。それが「日體人」だと私は実感している。この人類は、同窓の絆を財産以上に大切にしている習性をも身にまとう。われらの誇りである。日体大は小さいかもしれないが、その存在感は計れぬほど大きい。(2012年11月創刊号より抜粋)

【題字】学校法人日本体育大学
理事長 松浪健四郎

日本体育大学同窓会誌【日體人】VOL.13 2025年3月26日発行 発行・編集/日本体育大学同窓会
TEL : 03-3704-0266 FAX : 03-3704-1817 URL : <https://www.nittai-jin.com/> 制作協力/株式会社ヴァンダス

2024 NITTAIJIN

高田 佳朗 そして次の時代へ	2	黒田 次郎 × 高田 佳朗 野球部の未来を支える	10
松浪 健四郎 オンリーワンの大学へ	4	令和6年度 事業報告	12
今村 裕 日体大グループの近況と未来に向けて	6	第61回 体育研究発表実演会	16
石井 隆憲 大学の現状2024	7	『日体大卒業生健康寿命延伸プロジェクト』 2024年度追加調査のご報告	19
佐々木 禎 × 高田 佳朗 レスリング部の軌跡と挑戦	8	同窓会誌発行協力金について	20

そして次の時代へ

日本体育大学同窓会
会長 高田 佳朗



はじめに

会員の皆様には、平素より本会の活動にご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。また、法人、母校、そして、保護者会の皆様方には、日ごろ同窓会の活動を温かく見守っていただき、心より感謝致しております。加えて、本誌発刊にあたり、松浪健四郎理事長、今村裕常務理事、石井隆憲学長にご寄稿を賜り、厚く御礼を申し上げます。

令和6年度は、スポーツ界において本学の学生や同窓が大いに活躍し、日本中に勇気と元気を与えてくれました。大相撲では、大の里関(令和5年3月卒)が5月に行われた夏場所で同窓として初の幕内優勝を果たし、その後大関までスピード昇進をしました。また、夏のパリオリンピックにおいては、レスリングで金メダル5個、柔道で金メダル1個と銀メダル1個、フェンシングで銅メダルを、パリパラリンピックにおいては、バドミントンで金メダル1個と銅メダル1個、陸上競技で銀メダル1個、水泳競技で銀メダル1個と銅メダル2個を獲得するなどその強さとたくましさを見せつけてくれました。本当に素晴らしい活躍でした。おめでとうございます。そして、有難うございました。

さて、日本体育大学同窓会は「親睦」「研鑽」「母校発展への寄与」を目的として設立され、法人・大学、保護者をはじめ関係の皆様のご理解・ご協力の下で、その足跡を刻んでまいりました。

わが母校日本体育大学は、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」を目指して5学部体制へと発展を遂げ、今なお進化し続けています。一方、体育学部の卒業生を軸に組織化されてきた本会は、会員の高齢化、総会等参加者の固定化、新入会員の減少、職業の多様化など多くの課題に直面しています。

そうした在学生や卒業生を取り巻く環境変化が加速する中で、瀧澤康二元会長、塩谷和雄前会長のリーダーシップの下、多様性を受け入れ、柔軟に対応していくための方策を探り出し、新時代への課題の解決や本会の活性化策が講じられてきました。

そうした中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により計画した内容が全て止まってしまいました。

そして昨年度、再始動(restart)として「黎明」の精神を継承するとともに、これまでの取り組み成果を検証し、有効な活性化策を継続するとともに、地区協議会や都道府県支部活動の充実を力を入れてまいりました。

しかし、まだまだスタートラインに立ったに過ぎません。引き続き、母校の著しい進化に伴う我が同窓会の課題について、一つずつその解決に向けた取り組みを迅速かつ丁寧に進めてまいります。

なお、この会誌「日體人」につきましては、ペーパーレス化や郵送料の増額等の影響からデジタル化をして参ります。つきましては、本誌発行協力金にご協力いただいた方と準会員の皆様へは引き続きお送りいたしますが、それ以外の方々にはホームページ上でご覧いただくこととなります。何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

今後とも、本同窓会及び日本体育大学の発展のために、誠心誠意取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年度から以下のプロジェクトを立ち上げ、取り組みを始めました。

1 県人会再構築プロジェクト

これまでは各都道府県人会が存在し、同郷の先輩や後輩がともに会し懐かしい故郷の話や学生生活の過ごし方など、時間を忘れて語り合ったものでした。こうした県人会も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動が止まってしまいました。

令和6年度から、大学教職員の方にもご協力をいただきその再構築に向け複数の県で取り組んでおります。

2 民間・企業人との繋がりや学生への就職支援プロジェクト

近年学生の多くが、民間・企業へ就職する割合が増加していることから、全国の同窓民間・企業人とのネットワークを密にし、学生への就職支援を同窓会独自のスタイルで実施していきたいと考えています。

今年度は、各ブロックで作成していたグループラインを拡大し、全国の民間・企業人のグループラインとして改めて作成し、現在80名以上の方に参加していただいております。今後、このグループラインを活用して様々な情報提供や相談をしていきたいと考えております。

また、初の試みとして、メタバース空間での企業人会を令和7年2月8日に開催し、約30名の方々にご参加いただきました。この企業人会では、企業人としての関わり方や同窓による学生のための企業説明会の開催といった意見もいただきましたので、積極的に検討したいと考えております。

今後、より多くの方々の参加を呼び掛けてまいります。

3 ホームページの有効活用プロジェクト

同窓会のホームページについては、これまでなかなか活用されていない状況があることから、皆さんに見ていただけるような取り組みが必要であると考えました。

昨年、日本体育大学のアプリができ、その中にも同窓会ホームページへのリンクを作成していただきましたので、早急に対応が必要と判断して取り組みました。

その一つとして、ホームページ上に同窓会のFacebookを掲載し、タイムリーな情報を提供できるようにしました。また、同窓が営んでいる店舗の紹介欄の活用の呼びかけ、リレー形式で展開する企業人の紹介欄の作成、バナー広告の募集など今後大いに活用できるようにリニューアルしてまいります。

4 同窓会オリジナルグッズの製作と販売プロジェクト

以前に制作し人気のあったグッズの復活と新たなグッズの製作と販売、同窓が手がける商品の販売を「日体サービス」を通じて行えるよう現在準備しております。

これまでも人気のあった「エッサッサ君ストラップ」の復活やネックストラップ、タオルといったオリジナルグッズを今後製作し販売してまいりますので、各支部等において景品や新規会員への記念品としてお使いいただけると幸いです。

また、同窓の中には、お酒やお菓子、コーヒーといった身近な商品を販売している方もいらっしゃいますので、そうした方々の商品も同窓会オリジナルパッケージにて販売できればと考えております。

以上、複数のプロジェクトを同時展開で進めております。つきましては、皆様方からのご意見なども頂戴しながらより良いものにしてまいりたいと思います。

オンリーワンの大学へ

学校法人日本体育大学
理事長 松浪 健四郎



はじめに

春がやって来ました。今年こそは平穏無事な、昔から言われる弥勒の世になるよう願うばかりです。学校法人日本体育大学は、創立134年目に入りました。あと一步で文部科学省の定める大規模大学(学生数8,000人以上)の仲間入りをするまでに発展して参りました。「体育の雄」「スポーツの殿堂」と謳われるまで邁進できましたのは、卒業生や関係者の皆様のご理解とご協力の賜物であります。謹んで感謝させていただきます。

今年4月より、「私立学校法」が改正され、本法人も寄付行為等、新法に合致する改正案が認められました。理事は評議員を兼ねることができず、評議員会は理事長や理事の解任権を持ち、コンプライアンスを徹底するシステムになっています。理事会や理事長が独走してはならず、民主的に法人を運営せねばなりません。評議員会や理事会には、卒業生も入っており、伝統は継承されつつ発展せねばなりません。幾つかの私立大では理事長の不祥事が続き、法改正となりましたが、本法人としては、発展の為のバネにしたいと考えます。新人事は、6月に入ってからであります。

世界の日体大

オリンピックは平和運動です。戦前、戦争に最も協力したわが日本体育専門学校は、戦後、大学に昇格してより手のひらを返して、「スポーツの力を基軸に国際平和の実現に貢献する」とミッションの中に書く。どの団体・組織、どの大学よりもオリンピックを多数輩出し、数多くのメダルを獲得してきた歴史の金字塔は、日体大の最大の誇りです。日体大の存在は世界中で認知され、パリでの日体大勢の活躍は圧巻でありました。オリンピック運動に貢献するだけでなく、大

きな平和活動に通じる業績でもありました。

今年に入って、イスラエルとパレスチナのハマスとの戦争が停戦となりましたが、アメリカとカタールの両国が活躍した賜物と評価されました。カタールの首長(国王)であるシェイク・タミーム殿下に日体大は名誉博士号を贈ることのできる大学であることを証明してくれました。日本と中東の外交が盛んではありませんが、日本財団は日体大柔道部をイランに派遣したいとのことで、今春、実現します。エネルギー外交の一環、日体大の活動の舞台は広がっています。

コロナ禍以後、JICAの青年海外協力隊の派遣も平常に戻り、日体大勢も多く参加してくれるように転じました。国際社会で指導者として卒業生が貢献していただけますことは、ミッションの実践でもあります。JICAは、日体大に対して、在学学生を短期ではありますが、カンボジアに派遣してくれることになっていて、今年から実施されます。国際化された現在、日体大は立ち遅れることなく、国際人の養成に熱心に取り組んでおります。留学生も増加傾向にありますが、国際交流センターの設置が効果的でありました。

教員養成が主軸

少子化の波は急であります。が、どんなに少子化であっても、全国の学校がなくなるわけではありません。学校がある限り、日体大は教員養成に力を発揮せねばなりません。5学部と大学院3研究科をもつ「身体にまつわる文化と科学の総合大学」へと脱皮した日体大は、毎年2000名近い卒業生を送り出しています。5学部とも教員免許を出せるように今年から認められました。教員養成大学としての伝統が生きていることを誇りにしていただきたいと思ひます。しかも小学校、中学校、高校等に加えて、支援学校免許も出せる大

学です。就職先も多彩で、あらゆる分野から求人があります。それでも教員志望者がトップです。

毎年、400名前後の卒業生が教壇に立っています。小中教員の採用が堅調です。児童スポーツ教育学部では、小中の教員免許を取得できるため人気が出て参りました。他大学の追従を許さない教員採用、どんな時代を迎えようとも、日体大の大きな使命は教員の育成であります。

私立大学の経営する唯一無二の網走市にある日体大高等支援学校も全国的に知られるようになりました。支援学校教員免許のための実習校でもありますが、共生社会を先取りする日体大の矜持が守られている先見性こそが誇りでもあります。ぜひ、一度、見学をしていただけますようお願い申し上げます。

新校舎落成

100億円を借金せず、健志台キャンパスに新校舎が完成しました。健全財政がプレハブ的な教室を7階建てのビルへと転じさせてくれました。食堂、教室、研究室の他に図書館と美術コーナーを備えた近代的な校舎です。

名古屋の車のネジメーカーである(株)メイドーの長谷川士郎氏より寄贈された高額な日本を代表する作家の作品も陳列します。横山大観、平山郁夫画伯等の作品の展示を行い、学生たちの美意識向上と地域住民の皆さんへの公開、日体大のポリシーと存在感をさらに高めて参りたいと考えます。

新校舎は、健志台キャンパスのランドマーク的な建造物であり、日体大の発展を象徴するものです。歴史にたえ得る設計と芸術的センスの生かされた魅力的な校舎となっています。

新たなビジョン

日体大は国内にとどまらず、国際的にも高い評価を得るオンリーワンの大学にすべく、私たち経営陣も教学陣と力を合わせて精進を重ねて参ります。世の中は、大学のサバイバルゲーム中、日体大は勝利者にならねばなりません。

東京6大学と同様、日体大も首都圏大学化しています。地方からの受験生の減少は著しく、難易度も上昇しているがゆえ、地方からの入学者は少なくなっています。大学は同窓会と会議を重ねて、全国からの入学生を増加させる為に知恵をしばるべきだと考えます。全国区の日体大は、地方区の大学になりつつある現状

を心配しています。80を超す地方自治体とすでに連携協定を締結していますが、さらに増加させて影響力と存在感を高めたいたいです。

小中高の教員養成は順調であります。大学院の修了者の就職も堅調です。全国の大学には、「保健体育理論」と「体育実技」の授業がありますが、昨今、修士号以上の学位取得者を採用するのが一般的となりました。日体大学院修了者の大学への就職がすこぶる良好となっています。一流高校から日体大に進学する学生たちは、最初から研究者や大学教員を目指す傾向が顕著になってきています。

全国の自治体の「教育委員会」で仕事をしている卒業生の数は、近年多くなって参りました。教育長の座に就く卒業生も多数いて、日体魂を発揮してくれています。自治体に公務員として就職し、教育委員会に配属されるケースや教員から転属されるケースなどがありますが、行政職の責任ある立場で活躍される卒業生の増加は日体大のブランド力の向上と直結しています。

大学は国家公務員の上級職に合格者を出すべく努力し、難関大学と肩を並べねばなりません。立法機関でも堂々と仕事のできる卒業生を輩出する為に工夫せねばなりません。教育現場も大切ですが、官僚組織の中で働く人材育成にも日体大は全力投球すべきです。優秀で志の大きな学生が求められます。かつての日体大のイメージ、それを払拭して「学問の府」としての母校に期待していただきたいと思ひますし、ご協力をお願いします。

まとめ

時代の変化に負けにくい日体大も変化しました。もちろん伝統の継承は厳守し、新時代に対応せねばなりません。少子化という大問題を前に、大学のサバイバル戦争は激化中です。負けるわけには参りません。オンリーワンの体育大を目指し、魅力と実力を広報し、存在感を定着させねばなりません。卒業生の皆さんの活躍が、日体大のブランド力を高めて下さいました。そのパワーを大切に参ります。世界に知られる日体大、発展のためにさらなるご協力とご指導をお願いします。

日体大グループの 近況と未来に向けて

学校法人日本体育大学
常務理事 今村 裕



同窓会の皆様、日頃より温かいご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2024年の出生数は、過去最少の70万人の数となり、9年連続の減少となりました。少子化や地方格差などの問題のみならず、未来に向けた大学運営や教育内容の再考も迫られ、大学経営は依然として大変厳しい状況にあります。2024年度の日本の大学数は、学生募集停止や大学院のみを除くと786校(2024年6月24日、旺文社教育情報センターより)であります。少子化や地方格差などの従前からの問題に対する方策のみならず、未来に向けた大学運営や教育内容を再考していく状況にあります。

そんな中、ここ数年、学校法人日本体育大学が取り組んできたプロジェクトをご報告させていただきます。

先ず一つ目は、大学法人としては日本で初めて、軽度な知的障がいのある生徒を対象とした高等支援学校を北海道網走市に設立したことです。8年が経ち今年で6回目の卒業生を輩出することになります。生徒募集が厳しい中、8年にして初めて、定員を確保できることになりました。皆さまのご支援の賜物であり感謝申し上げますとともに、更なるご支援を頂きたいと思っております。

二つ目は、学部の入学生定員の増員です。ここ5年から6年間で4学部増設且つ定員増を実行し、さらに、今年スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科において入学生定員を100名増員し、入学生定員は1,870名となり、大規模大学に迫る規模にまで成長しました。設置高校4校の生徒募集戦略と合わせ法人全体の学生募集に繋げる対策を講じ、現在に至っております。少子化の中、本大学の規模で設置校が4校あるということが大きな

強みとなっております。

三つ目は、大学の附属機関としてクリニックを開設したことです。過去コロナ禍において大学法人としては最も早期にワクチン接種を実現することができました。能登半島地震発生直後から日本医科大学と協力し、本学所有の救急車を利用して現地での救助救命に尽力しました。

そして、最後に自治体連携協定推進事業であります。今や84の地方自治体と「体育スポーツの振興に関する協定」を締結し、学校法人日本体育大学と全国の地方自治体が、各々の有する教育資源等を有効かつ適切に活用することにより「体育・スポーツ・健康づくり」の各分野における一層の発展と更なる社会貢献をはかるとともに、将来の受験生である小中学生を大学に招き、トップアスリートと交流することにより少子化に向けた学生・生徒募集に結びつける戦略を取っております。

以上、日体大グループがここ10年歩んできたプロジェクトを振り返ってみましたが、経営には、判断力、決断力、行動力が必要になります。先行きが非常に厳しい私学経営の中、常にチャレンジ精神をもってその任にあたっていかなければならず、これからも全国の同窓生の皆様と連携を深め、魅力的な大学、誇れる大学にして参りたいと考えております。今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。最後に同窓会の今後ますますのご発展を心より祈念しご挨拶とさせていただきます。

大学の現状 2024

日本体育大学
学長 石井 隆憲



同窓生の皆様、日頃は日本体育大学の活動に格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。大学を代表して、御礼申し上げます。

この一年間の大学の活動について、簡単ではありますが、最初にご報告させていただきます。

2024年度から高大連携の強化を図ることを目的として、2024年2月に学校法人日本体育大学が設置する日本体育大学荏原高等学校、日本体育大学柏高等学校、日本体育大学桜華高等学校、浜松日体高等学校の各高等学校からの本学への合格者に対して事前教育を2日に亘り実施しました。しかしながら生憎の雪となり、オンラインとの併用を余儀なくされましたが、多くの生徒さんが大学までいらしてくださり、プログラムに参加してくれました。間違いなく、一定の効果があがったものと思われまます。2025年以降にも高大連携をより強化していくこととなります。

ところで、同じく2024年2月には、児童スポーツ教育学部の創立10周年を記念して式典を行いました。また、2024年3月15日の卒業式は、ほぼコロナ前の状況に戻り、午前中は大学の卒業式を、また午後は大学院の学位記授与式が行われました。

年度が明けた4月3日の入学式につきましても、これまでと同様の運びで挙行されました。各学部の授業や実習につきましても順調に進められました。また今年度はパリオリンピック・パラリンピック競技大会が行われ、本学の現役学生並びに本学の卒業生が大いに活躍をし、日本体育大学の名前を大いに高めてくれました。大学がこれまで実施しているオープンキャンパスには、年間で1万人以上の参加者があり、過去最高の人数となり

ました。

2025年度に向けての入試の状況については、昨年度よりも受験生が増え、入学者の手続きは順調に進められています。しかしながら私立大学の置かれている状況を見ますと、2024年度については、全国598校の大学のうち59.2%に当たる354校が定員割れを起きました。また、定員充足率が8割未満の大学は182校で、全体の30.4%に上ります。昨年もお伝えしましたが、受験生の入試動向も大きく変化しており、本学の場合、年内の入試で入学を決める傾向にあります。まさに入試の在り方は、受験生の確保と直結しているため、近年では毎年検討を重ね、よりよい方法を採用していくようにしています。

現在、日本体育大学は、「体育スポーツで学ぶ」総合大学を目指しています。このことについては、直接、同窓会の皆様にお話しする機会を設けたいと思っております。

最後になりますが、日本体育大学の発展のためには、同窓生の皆様のご支援、ご協力が不可欠です。これからも引き続き応援くださいますようお願い申し上げます。

レスリング部の軌跡と挑戦

— 会長が見たレスリング部の進化 —

レスリング部OBOG会 会長
佐々木 禎

日本体育大学同窓会 会長
高田 佳朗



佐々木会長の任期のお話

高田 日本体育大学同窓会で会長を拝命しております高田です。本日は、よろしく申し上げます。

早速ですが、佐々木会長は就任されて何年目になるんですか？

佐々木 会長は通常3年任期なのですが、ちょうど交代する時期がコロナ禍だったので次の会長を選ぶことができずに、「佐々木さんもう1期やってよ」ということになっていま5年目です。だから僕は他の人よりも長いんですよ(笑)。任期は来年までなんです。

高田 5年ですか。でも、OBOG会の仕事はその前からやっておられますよね？

佐々木 そうなんです。その前に幹事長を2期務めていたので、もう12年ですかね。

高田 それはご苦労様です！（笑）

佐々木 だからもう疲れちゃって(笑)

日体大レスリング部の五輪での快挙

高田 それにしてもやはり、パリ五輪のレスリングはすごかったですね。日体大レスリング部の選手が6人出て金メダルが5個！本当におめでとうございます！

佐々木 ありがとうございます！金メダル自体が35年ぶりなんです。前回の東京は銀メダルで、その前のリオも銀メダル。

高田 そうなんです。36年前の金メダルってどなたでしたっけ？

佐々木 昭和63年(1988年)のソウル五輪で、佐藤満選手がフリースタイル52kg級(当時)で金メダルを獲ったんです。それ以来なんです。

高田 いやあ、それから結構時間が経ちましたね。

佐々木 しかしね、ソウル五輪のあった昭和63年(1988年)以降、日本レスリングはどん底に落ちていくんですよ。なかなか勝てなくて。

高田 吉田選手や伊調選手など、女子は活躍していましたが、男子はなかなか金メダルがとれませんでしたからね。

日体大レスリング部の変遷

高田 今は日体大レスリング部の部員は何名くらい在籍しているんですか？

佐々木 部員は80名です。男子が65名で、女子が15名です。昔は女子部員はいなかったんですよ。

高田 佐々木会長はレスリング部の練習を見ることはあるんですか？

佐々木 はい、昨日もレスリング部の練習を見に行っただんです。僕らの時代は「やらされてる」という雰囲気があったんですけど、今はみんながレスリングを「やっている」という雰囲気になっていますね。昔は「強くしなきゃいけない」という思いがありましたから、厳しい言葉も飛んだりして殺気立っていたんですよ。今は自分たちの好きなように研究しながら練習している。自主性を感じましたね。

高田 時代の違いもあるんでしょうけど。確かに、自分自身が強くなろうと思わないと強くはなれないですよ。どの種目もそうですけど。ましてや格闘技のレスリングだとそうですよね。

佐々木 しかしね、今はたくさん金メダルを獲ったことで脚光を浴びていますけど、これまでの先輩方の積み重ねも強さの理由だと思っているんです。昭和24年に世田谷校舎に移ったときにレスリング部が誕生したんですけど、その頃のメンバーはほぼ全員素人だったんです。

高田 え、そうなんです？

佐々木 元柔道部だけど身体が小さくて勝てなかった選手、陸上部で投擲をやったけど結果が出なかった選手、相撲部で同じような理由で勝てなかった選手——。そういう人たちが集まってレスリング部をスタートしたんです。それでみんなレスリングが好きになってやがて教員になります。それで全国に散らばってレスリングを広める。そしてその教え子たちが戻ってきて。という積み重ねがあったからこそ、今の栄光があると考えています。

高田 本当にゼロからのスタートだったわけですね。それがここまでの強さになるとは、すごいですね。



佐々木 その頃は早稲田大学と中央大学が強くて、なかなか勝てなかったんです。「じゃあどうしたらいいのか？」ということで、合宿所をつくってみなで生活を始めるんです。深沢に第一合宿所っていうのをつくって4~5人くらいで住んでいて、そのあとどんどん大きくなって行って、第二、第三、第四合宿所。日体館っていうのもありましたね。この合宿所を自分たちでつくったのが強くなった要因だと僕は思うんですよ。

日体大レスリング部OBOG会について

高田 レスリング部のOBOG会は、今は何名くらいいらっしゃるんですか？

佐々木 卒業生全部で1,300人程度だと思うんですよ。亡くなった方が100人くらいいらっしゃるんで、1,200人くらいですね。

高田 年会費はいくらなんですか？

佐々木 4,000円ですよ。その昔は5,000円で、各支部に1,000円、4,000円を人数分本部に振り込んでいたんですよ。今はそういうことが成立しなくなったので、個人に振り込み用紙を送っています。

高田 なるほど。それで実際にはどのくらい集まっているんですか？

佐々木 5年くらい前は年間300万を超えてたんですよ。それが残念ながら年々会員も減ってしまっていて、だから今は160万くらい。

佐々木 僕が会長になってから、「お金を残してもしょうがない」と思いまして、現役学生に補助金を出すことにしたんです。試合の遠征などがメインですが、コロナ禍には罹患して入院した部員にも、OBOG会費から手当を出しました。

高田 そうなんです。そういう手厚いフォローを

OBOG会のほうでやっていただけると、学生もありがたいですよ。同窓会もコロナ禍に雄渾奨学金に2,100万ほど寄付させていただきまして。松浪理事長もよく「大学を辞める人間が少なくてよかった」とおっしゃってくれます。とにかく我々としてもね、学生支援が最も重要だと考えています。

佐々木 レスリングOBOG会としては、もし他にも何かあれば、すぐにOBOG会長権限で常任幹事会に連絡して許可を得て、学生のためにお金を使おうと思っています。やはり、現役学生あつてのレスリング部ですからね。

高田 日体大レスリング部はこれからもさらに活躍を続けていくと思うので、OBOG会としてもいろいろとお忙しくなりそうですね。

佐々木 そうですね。レスリング部はもちろんなのですが、他の部も含めて日体大全体で盛り上がっていくような、そういう流れができると嬉しいですね。

高田 今後のご活躍を期待しております。本日は、有難うございました。

(対談日:令和6年12月)



プロフィール 佐々木 禎

昭和50年3月卒 静岡県出身
静岡県立稲取高等学校→日本体育大学

大学卒業後は静岡県立体育教師を務めた。1973年のユニバーシアード57kg級で優勝。1974年には全日本選手権でも優勝を飾り、世界選手権では4位だった。

1977年の全日本選手権では3年ぶり2度目の優勝を遂げると、世界選手権でも優勝を果たした。昨年度まで6年間、日本レスリング協会の理事を務め、現在は毎日のトレーニングを欠かさず、静岡県スポーツ協会、静岡県レスリング協会の副会長も務める。週1回子どもたちに指導などを行い、レスリングの普及に尽力している。

野球部の未来を支える

— 多様性がもたらす新たな可能性 —

硬式野球部 OB会 会長
黒田 次郎

日本体育大学同窓会 会長
高田 佳朗

最近の野球部～ 高田会長と野球部の関わり

高田 本日はよろしくお願ひします。早速ですが、硬式野球部はリーグ戦3連覇を果たしましたね！2023年は春秋リーグ戦を連覇です。すごい勢いですね。

黒田 ありがとうございます！しかしこの春はちょっと……。

高田 今年は故障した選手が多かったようですね。

黒田 そうですね。両エースがちょっと出遅れたっていうのがいちばん大きかったですね。野球部としては初の4連覇を期待していたんですけど、残念な結果になってしまいました。

高田 そうですか。やはり投手は調整が難しいですよ。ちょうど僕が4年生のときに、明治神宮野球大会で日体大が優勝したんですよ。

黒田 あの代の方々ですね。

高田 当時のエース、白武佳久が僕の1学年下で、あとは山本君とか大津君とか、みんな友だちだったんですよ。

黒田 そうなんですか！白武さんが4年生のときに僕は1年だったんですよ。

高田 じゃあ僕とはちょうど入れ替わりで入学したんですね。あと、茨城県の霞ヶ浦高等学校野球部、高橋祐二監督は同じクラスでしたよ。

黒田 へえー！そうなんですか！毎年甲子園開幕前に、松浪理事長をはじめ、日体大の野球部の関係者、監督、コーチ、部長、スタッフたちが集まって激励会をやるんですよ。そこに高橋先生も来られていて、今度の試合は「智辯和歌山と対戦するので校歌を歌いたい」と仰っていました。

高田 あのときテレビでちょうど試合後の監督インタビューを見てたら、知ってる顔が出てきて「あ、祐二だ！」ってひとりで喜んでました。(笑)

黒田 そういえば、高田会長は高橋先生にちょっと雰囲気似ていますよね。

高田 同じクラスで、同じような雰囲気だったし、彼とは仲良かったんで(笑)。いやあでも本当に嬉しかったです！



野球部OB会について

高田 黒田会長は会長に就任されたのはいつごろなんですか？

黒田 ちょうど1年前ですね。だから2024年12月から2年目スタートっていう感じです。

高田 野球部OBってどのくらいの人数がいらっしゃるんですか？

黒田 約3,500名くらいですね。

高田 3,500人！すごいですね！みなさんOB会には登録されてるんですか？

黒田 そうですね。ほぼ全員が登録しています。47都道府県にそれぞれの世話役を決めて、ちゃんと連絡ができるようになっています。

高田 仕組みづくりが徹底しているんですね。

黒田 OB会では北海道、東北、関東、東海、北信越、中国、関西、四国、九州と、9ブロックに分かれています。9ブロックの責任者を決めています。あとは副会長も5名おりまして、元プロ野球選手ですとか、元社会人野球の選手ですとか、色々な人に動いてもらって活動しています。

高田 野球部OBの方々には教職に就かれる方が多いですか？

黒田 昭和の時代は卒業後に教員になられる方が多い6～7割くらいだと思うんですけど、今は多分2割くらいですね。おそらく日体大全体でそうになってきていると思うんですけど。でも実は野球部OBはかなり多様性がありまして、地方議員になるかたも複数いらっしゃって、愛知県の犬山市長、原欣伸さんも野球部OBなんですよ。もちろん、野球界においても日本野球機構の事務局次長(2025年1月1日から事務局長)や、軟式野球連盟の事務局長など、様々な方を輩出しているので、野球部としてもOB会としても、この多様性はとても誇らしいです。

企業人とのつながりがとても大切

高田 同窓会も2023年から新春名刺交換会を開催しているんですよ。日体大卒業生で代表取締役が全国に約600人いるらしくてですね。

黒田 それはすごいですね！

高田 昨年度は100人ほど集まっていたいただきました。今年度はメタバースを使って全国の企業人大会も行えないかと計画しています。そうしたらもっと多くの人に集まってもらえるんじゃないかと。

黒田 交通費もいらないし、いいかもしれないですね。これから少子化の影響もあるんでしょうし、高校もどんどん減っていくでしょう。そうすると教員になるのも難しくなってきます。そこで、企業人大会みたいなものをもっと盛り上げていけたらいいですね。

高田 そうなんですよ。すでに企業に勤めている卒業生も多いですし、企業人の方々との繋がりをどうやってつくっていくか？というのが重要だと思っています。

黒田 野球部のOBで、僕らの世代だと集まろうと思ってても教員が多いから、企業人の方々はなかなか参加してくれないこともあります。どうしても教員同士の方が共通の話題が多くて、あまり居心地が良くないのかもしれないです。「企業人になった卒業生を参加しやすくする」というのも考えなくてはいいですね。

野球部OB会、これからの展望

高田 野球部のOB会として、これからの展望などありましたらお聞かせいただけますか？

黒田 そうですね。まずは「多様性」をテーマに色々な方々の声をちゃんと聞き取って、できる限りこちらに向いてもらえるようにしたいですね。僕らが現役だった当時は400～500人の部員がいて、試合に出られな



いで卒業していく部員もたくさんいました。しかし、その彼らが「4年間日体大で野球やってよかったな！」と、思えるようになれば、OB会にも参加してくれるはずなんです。それと、教員じゃなくても参加しやすいOB会にしなければ、どんどん腐れていってしまうのではないかと危機感があります。教員以外の方にも来てもらえるように、仕組みをつくっていききたいですね。

高田 野球ってチームスポーツじゃないですか、だから個人競技よりも集まりやすい、みたいなことはないんですか？

黒田 それはあまり関係ないと思います。僕の同級生でも主力選手として活躍していたからといって、OB会に頻繁に来てくれるわけではないですし、逆に裏方で一生懸命頑張っていたOBがいつも来てくれたり、あとは途中で野球部を辞めちゃったOBも来てくれたりもします。野球で活躍したかどうかあまり関係ないような気がしますし、難しいですね。しかもこれも僕の世代の話ですからね。下の世代になるとわからないんですけど。

高田 それぞれの部でお話をお伺いしていると、同窓の集まりっていうのも結構苦労されているんですよ。またいろんなところでお互いのPRをしながら、多くの部を盛り上げていきたいですね！本日は、有難うございました。

(対談日：令和6年9月)



プロフィール

黒田 次郎

昭和61年3月卒 東京都出身
桜美林高等学校→日本体育大学

日本体育大学卒業後、JICA 海外協力隊の野球隊員として中米・コスタリカ共和国で野球の指導・普及活動に従事。その後、米国ウェスタンミシガン大学大学院スポーツアドミニストレーションコースを修了。帰国後、広島東洋カープのフロント業務やドミニカ共和国のカーブアカデミー運営管理に携わる。

現在は近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科で教授を務め、スポーツビジネス教育や次世代のグローバル人材育成に注力。主な社会活動として、JICA 野球技術専門委員の立場から、世界規模での野球普及やスポーツを通じた国際交流、社会貢献活動に注力しており、豊富な国際経験を活かして幅広い活動を展開している。

令和6年度 事業報告

全国規模研修会等



日本体育大学入学式

令和6年4月3日(水)
東京・世田谷キャンパス
●高田会長ほか本部役員が出席

全国代表者会議(代議員会)

令和6年5月25日(土)・26日(日)
東京・世田谷キャンパス
第1日目(午後)
●第1部:高田会長挨拶の後、大学より学長挨拶及び入試・就職状況等説明、質疑応答
●第2部:法人より松浪理事長及び今村常務理事の挨拶・講話
●会議終了後、学長招待懇親会(Nレストラン)
第2日目(午前)
●令和5年度 事業及び決算報告
●令和6年度 事業計画及び予算案審議
●ブロック毎、打ち合わせ等

就活応援イベント2024

令和6年10月7日(月)・8日(火)
●在学生支援:本会が後援し、学生支援センター主催のスポーツ業界講座を開催

第3回 日體未来応援団・賀詞交換会

令和7年1月25日(土)
帝国ホテル東京(法人主催)

メタバース企業人会

令和7年2月8日(土)

日本体育大学卒業式

令和7年3月15日(土)
東京・世田谷キャンパス
●高田会長ほか本部役員が出席

役員会

第1回

令和6年5月11日(土)
東京・世田谷キャンパス
●令和5年度 事業及び決算報告
●令和6年度 事業計画及び予算案審議 等

第2回(通信)

令和6年8月23日(金)
●雄渾奨学金について(案)

第3回(オンライン)

令和6年11月2日(土)
●規程改正(案)等

第4回

令和7年3月20日(祝・木)
東京・世田谷キャンパス
●令和6年度 事業及び決算報告
●令和7年度に向けて 等

同窓力士激励会



大相撲七月場所(愛知県)

令和6年7月7日(日)



大相撲三月場所(大阪府)

令和7年3月3日(月)



地区協議会(通称:ブロック会議)

7ブロックにおいて、地区協議会を開催いたしました。地区協議会とは:47都道府県を7つのブロックに分け、各地区で協議会を年1回開催し、活動の活性化や情報交換、親睦を深めるため、開催しています。



九州地区協議会(鹿児島県)

令和6年6月8日(土)



中国・四国地区協議会(高知県)

令和6年7月13日(土)



北海道地区協議会(道南・函館市)

令和6年9月14日(土)



関東地区協議会(千葉県)

令和6年9月22日(日)



東北地区協議会(青森県)

令和6年10月26日(土)



近畿地区協議会(和歌山県)

令和6年11月9日(土)



北信越・東海地区協議会(石川県)

令和6年11月16日(土)

女子同窓の集い

上記の他、全7ブロック会議内において、女性部会を開催



関東女子同窓の集い(東京都)

令和6年5月19日(日)



九州女子同窓の集い(熊本県)

令和7年2月22日(土)

支部活動

全国47都道府県に50支部あり、各支部において、総会や研修会を実施しております。活動の一部ではありますが、活用いただきたく、紹介いたします。

北海道

2024年度 北海道同窓会 教育実習特別講師打合せ研修

令和6年4月20日(土) / ホテルライフォート札幌

目的・内容

大学・同窓会の現状を理解し、同窓会の運営並びに学生支援に役立てる。

講師 教育実習指導責任者 青柳徹(平成3年卒業)

成果

- 大学より、教育実習指導責任者の青柳教授に出席いただき、大学の現状等説明、同窓会より高田会長に出席いただき、同窓会の現状、今後の活動等の詳細について説明があった。
- 大学や同窓会の現状を理解しながら、支部活動にどう活かしていけるか等、情報交換をした。
- 教育実習の特別講師として、学生への指導法等、確認することが出来、意思疎通を図ることが出来た。

秋田

令和6年度 秋田県同窓会研修事業

令和6年6月8日(土) / 横手市 松與会館

目的・内容

日本体育大学秋田県同窓会「日体秋田の会」のさらなる発展を期す。近年の入学制度を学び、母校への支援の一助となるよう研修する。

講師 アドミッションセンター事務長 大山茂(昭和60年卒業)

成果

- アドミッションセンター事務長より、大学の現状を含め、近年の入学制度について、変更箇所を中心に詳細な説明があった。参加者の中には、教育実習巡回指導者もあり、県内高等学校への情報提供を早急に行う必要性を感じた。
- 各地域の高等学校関係者も参加、直接説明を聞くことができ、理解を深めることが出来た。県内から入学者が少しでも増えるよう、次年度も同様の研修会を開催していきたい。

青森

令和6年 就職セミナー

令和6年12月29日(日) / モルトン迎賓館青森

目的・内容

- 1 教員採用状況と採用試験合格に向けた取り組み方について
- 2 教員生活と選手生活

講師

- 1 青森県高等学校体育連盟会長・県立青森西高等学校 校長 岡一仁(昭和63年卒業)
- 2 県立黒石養護学校 教諭 平井奏子(令和2年卒業)

成果

- 1では、教職歴30年以上の経験を活かし、多校種の経験談を踏まえ、本県の教員採用試験の現状を伝え、試験に向けた取り組みについて、的確なアドバイスがあった。
- 2では、母校で講師として2年勤務。その後、青森県で養護学校講師を経験し、採用試験に合格。学生時代は競技に打ち込む生活、家族の理解や協力、あきらめず頑張ったことで、今があることが手に取るように分かりやすく共感される内容であった。
- 採用試験までの準備等、具体的なアドバイスもあり、意欲のある学生や保護者より、地元OB・OGと知り合える良い機会でもあり、開催を続けてほしいとの要望もあった。

新潟

令和6年度 新潟県同窓会研修事業

令和6年7月7日(日) / 新潟東映ホテル

目的・内容

- 新潟明訓高校・新潟医療福祉大学勝てないチームから勝てるチームへ
- 現場のスポーツ指導で大切なこと(「瞬時の判断」と「バランス」)

講師

新潟医療福祉大学 教授 野球部総監督 佐藤和也(昭和54年卒業)

成果

- 新潟明訓高校の野球部監督に就任。チームはなかなか勝てなかったが、大阪のあるトレーナーから、V.S.O.P(V:バイタリティ S:スペシャリティ O:オリジナリティ P:パーソナリティ)の大切さを教わり実践。活力ある指導を続け、専門性を磨き、自分流を極め、人との交流を大切に人間力を高めること。
- 運命には偶然と必然がある。感性を高め、状況を観て、勘を鋭くする。「感・観・勘」が重要である。
- 閃きから来る「瞬時の判断」が勝負を決める。そのためには、目標の明確化と習慣化を徹底すること。
- 熱のこもったトークで聴衆を引き込み、出席した多くの関係者が感銘を受けた。

群馬

令和6年度 支部総会時講演会

令和7年1月18日(土) / プラザアリア

目的・内容

バリオリンピック金メダリスト2名を輩出した異色の育成方法を知り、今後の各競技指導の一助とする。

講師

育英大学 副学長 柳川美麿(平成10年卒業)

成果

- 育英大学レスリング部創部までの経過を知ると共に日体大同窓生とのつながりの重さを痛感することができた。
- 選手との信頼関係構築の重要性(時間・負担がかかる)が理解でき、今後の指導方針の参考になった。
- 五流大学から世界の頂点を目指すために、個性の尊重と学生指導の徹底を図る重要性を知ることができた。世界で勝つためには練習の量と質と共に、専門医、トレーニングジム、全寮制、食事面など、周囲の環境を整えることの必要性を改めて認識した。米国流の指導ポイント(敗者でも良いところを称える)を知ることができ、今後の指導の参考となった。

長野

2025 アスリートサポートセミナー NAGANO

令和7年2月22日(土) / ホテルメトロポリタン長野

目的・内容

スポーツの競技力向上(特に女性アスリート)を目指すアスリート等に向け研修する。

講師

児童スポーツ教育学部長 須永美歌子(平成6年卒業)

成果

- 競技力向上をめざすアスリートにとってコンディショニングは必要不可欠で、女性特有の生理的特徴を考慮したコンディショニング(トレーニング方法や栄養摂取の最適化)に焦点を当てた講演だった。
- 科学的根拠に基づいたアプローチを通じての解説もあり、女性アスリートが自己のポテンシャルを最大限に発揮するための新たな視点の提供があった。
- アスリートはもちろん、参加した指導者からは、最先端の情報を提供してもらえ、現場で活かしていきたい、との感想が寄せられた。

山梨

令和6年度 就職対策研修会

令和7年1月24日(金) / 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス

目的・内容

- 1 教育実習の心構え・教員採用試験対策について
- 2 公務員採用試験に向けて
- 3 企業への就職対策について

講師

- 1 山梨県スポーツ協会 吉成謙(昭和57年卒業)
- 2 甲府地区広域行政事務組合 消防史員 角田功(平成5年卒業)
- 3 (株)フォーチュン 代表取締役 永田淳一(平成5年卒業)

成果

- 山梨県内の採用に関する現状や心構えについて、説明をした。
- 卒業後の進路について、決めかねている学生にとっては、視野を狭めず、挑戦してもらえるよう、教員・団体職員・民間企業の立場から、情報提供があった。
- 4年生から下級生へは、経験したことを踏まえ、対策や勉強法等、共有された。
- 研修会終了後の情報交換会・交流会も開催、山梨県出身の学生同士の横の繋がりが、また同窓との縦の繋がりがもでき、今後の活動に向け、基盤を築くことができた。

兵庫

教員採用試験対策研修

令和6年4月28日(日) / 大原学園 神戸校

目的・内容

教員採用試験合格に向けての学修
一次試験対策「学習指導要領」編
一次試験対策 専門科目「保健体育」編

成果

- 学習指導要領についての要点を押さえた後に過去問題の演習を行ったが、参加者の大半が7割以上の正答を得た。
- 保健体育の専門分野の中で、出題傾向の高い安全管理と熱中症対策について理解を深めることができた。
- 集団面接の要点整理では、資料学修後に模擬面接を実施したので、根拠をもとにした発言ができるようになった。
- オンデマンドでの参加者についても、zoomの活用や資料提示で対面式と同等の効果が得られた。

山口

令和6年度 就職対策研修会 兼 県人会

令和7年2月10日(月) / くいもの屋わん

目的・内容

山口県の教員採用についての情報提供と山口県人の親睦を図る。

講師

山口県同窓会 事務局長 鈴木三郎(昭和56年卒業)

成果

- 地元の状況を伝えることで、前向きに捉え、何ごとにも意識を高めながら望む姿勢が見られた。
- 卒業後の進路について、地元の民間企業に就職を希望する学生もあり、企業が望む人間像についても、情報を提供した。
- 1年生から4年生まで、山口県出身者全員を対象として県人会を開催することで、学年や学部に関係なく繋がり・連携を取れる良い機会となった。
- 大学教職員の参加もあり、より県人の連携を強化していきたい。

徳島

就職対策研修

令和7年2月1日(土) / 日本体育大学 横浜・健志台キャンパス

目的・内容

- 1 県内の就職状況や求人等について
- 2 現職の県公立学校教員からのアドバイス
- 3 教育実習への心構え、教員採用試験の現状等

講師

- 1 徳島県同窓会 会長 村井光夫(昭和49年卒業)
- 2 徳島県同窓会 事務局次長 坂本慎太郎(平成24年卒業)
- 3 徳島県同窓会 副会長 福多雅英(昭和57年卒業)

成果

- 徳島県での就職状況や教員採用審査の具体的内容について説明をすることで、早い段階での就職に対する取り組みへの意識が高まった。
- 今年度教育実習に参加した4年生から、経験をもとに準備や注意点等の話しをしていただき、参加した1~3年生に教育実習を事前にイメージすることができた。
- 数少ない徳島県出身者が集まるという機会がないので、コミュニケーションを図り、徳島県人との相互のつながりを深めることができた。

長崎

令和6年度 保護者会共催 就職対策研修会

令和6年11月3日(日) / 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス

目的・内容

- 1 本学の就職状況、学生支援センターの支援内容等について
- 2 長崎県の状況について(教員採用試験等を含む)

講師

- 1 学生支援センター 学修・キャリア支援部門 小林歩夢(令和6年卒業)
- 2 長崎県同窓会 会長 吉田惣治(昭和56年卒業)

成果

- コロナ禍の影響等もあり、久しぶりの開催となったが、参加しやすい時期と意見があり、今後も同様時期に開催していきたい。
- 終了後のアンケートには、積極的な意見も多く、真剣に取り組む姿も見られた。
- 大学の担当部署職員からの講話もあり、就活状況やスケジュールなどの情報提供もあり、とても有意義であった。
- 教員採用試験については、試験日程を早めたり、大学3年生から受験可能になる地域等もあるので、最新の情報収集を行い、準備を進めるよう説明をした。

宮崎

令和6年度 教育実習事前研修・就職対策研修

令和6年6月1日(土) / みやざき協働支援センター

目的・内容

- 1 教育実習の心得について
- 2 採用試験・就職活動について

講師

- 1 宮崎県同窓会 会長 長友寧雄(昭和49年卒業)
- 2 宮崎県保護者会 会長 宮田直之(平成8年卒業)

成果

- 教育実習を控えた4年生に、実習の心得について説明をし、実習生としての心構えを学修した。
- 就職活動について、特に本県のことを中心に採用試験事情やその傾向と対策について講義をし、採用試験に向けての意識向上につながった。

第61回 体育研究発表実演会

「TOGETHER -共に-」をテーマに、11月26日(火)横浜アリーナにて開催いたしました。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 体操競技&トランポリン | 8. レスリング |
| 2. 朝鮮大学校 | 9. 体操 |
| 3. キャンプインストラクターアカデミー | 10. 集団行動 |
| 4. 少林寺拳法 | 11. オリンピック・パラリンピック報告会 |
| 5. 新体操 | 12. エッサッサ |
| 6. チアリーダー | 13. フィナーレ |
| 7. ダンス | |

YouTubeにて
全編動画
公開中!



エッサッサ



体操



レスリング



ダンス



体操競技



集団行動



少林寺拳法



新体操



チアリーダー



キャンプインストラクター
アカデミー



フィナーレ



トランポリン

オリンピック・パラリンピック報告会

パリオリンピック・パラリンピック競技大会の入賞者について報告いたします。

また、メダリストに対し、本会表彰規程・スポーツ奨励賞細則に基づき、対象者12名のうち8名に奨励金を授与いたしました。



パリオリンピック・パラリンピック 日体大関係者 メダリスト・入賞者・出場選手

競技	氏名	所属	種目・結果
柔道(男子66kg級)	阿部 一二三	既卒	個人:●金メダル/団体:●銀メダル
レスリング(フリースタイル53kg級)	藤波 朱理	在学/3年	●金メダル
レスリング(グレコローマンスタイル60kg級)	文田 健一郎	既卒	●金メダル
レスリング(グレコローマンスタイル77kg級)	日下 尚	既卒	●金メダル
レスリング(フリースタイル57kg級)	樋口 黎	既卒	●金メダル
レスリング(フリースタイル65kg級)	清岡 幸太郎	既卒	●金メダル
柔道(女子52kg級)	阿部 詩	既卒	団体:●銀メダル
フェンシング(女子団体フルール)	東 晟良	既卒	団体:●銅メダル
バレーボール男子	高橋 藍	既卒	ベスト8(7位)
バレーボール男子	山本 智大	既卒	ベスト8(7位)
体操競技(女子)	牛奥 小羽	在学	決勝L:8位
アーチェリー	斉藤 史弥	在学/2年	団体:ベスト8

競技	氏名	所属	種目・結果
パラバドミントン(シングルス、ダブルス/WH2)	梶原 大暉	既卒	シングルス:●金メダル/ダブルス:●銅メダル
パラ水泳(100m背泳ぎ/S8)	窪田 幸太	既卒	●銀メダル
パラ陸上(400m、走幅跳/T13)	福永 凌太	在学/大学院1年	400m:●銀メダル/走幅跳:7位
パラ水泳(100mバタフライ、400m自由形、400mポイントリレー/S11)	富田 宇宙	既卒	100mバタフライ:●銅メダル/400m自由形:●銅メダル/混合400mリレー(6位)
パラ陸上(円盤投げ/F37)	新保 大和	既卒	4位
パラ陸上(400m、UR/T47)	辻 沙絵	在職/嘱託職員	400m:7位/UR:4位
パラ陸上(走幅跳/T63)	兎澤 朋美	既卒	5位
パラ卓球(混合ダブルス、シングルス/クラス8)	友野 有理	既卒	シングルス:準々決勝敗退(5位)
パラバドミントン(シングルス、混合ダブルス/SU5)	今井 大湧	既卒	シングルス:1次リーグ敗退(5位)/混合ダブルス:1次リーグ敗退(7位)

※所属は出場当時

『日体大卒業生健康寿命延伸プロジェクト』 2024年度追加調査のご報告

日本体育大学 体育研究所 研究プロジェクト3
菊池直樹、岡本孝信、横山順一、
齋藤義信、橋本佑斗

調査にご協力いただきありがとうございました

今年度は、2023年度にアンケート調査を実施していただいた389名の中から希望する方に活動量調査と遺伝子検査を実施いたしました。合計で88名の方に活動量及び遺伝子検査を実施していただきました。ご協力いただき感謝申し上げます。今後は、皆様から頂いたデータを基に、より多くの卒業生の皆様に健康寿命の延伸に役立つ情報を提供して参ります。引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プロジェクトリーダー 菊池直樹

身体活動量と遺伝子多型の調査について

本年度は2023年度にアンケート調査に協力いただいた方の中で、希望者(88名)に対しての活動量計および遺伝子採取キット(下部写真)を用いて身体活動量と遺伝子多型を調査しました。調査した身体活動量については、速報として平均値のみグラフに示しました(図1)。今回の参加者の平均は、1日あたり70分でした。厚生労働省の身体活動・運動ガイド^{※1}では、1日あたり60分の身体活動(高齢者は40分)が推奨されており、推奨値を上回る結果となりました。

また、遺伝子多型については筋の性質に関わるACTN3とお酒の代謝に関係するALDH2の遺伝子タイプを解析しました(図2)。図2は、それぞれの遺伝子の割合(88名中21%がRR型など)を示しています。ACTN3はRR、RX、XXの3タイプがありR型を持っていると筋力やパワーを必要とする競技に有利で^{※2}、Xを持っていると柔軟性と持久力に優れている^{※3}ことがわかっています。ALDH2遺伝子多型のGG型はお酒が強い(アセトアルデヒドの代謝能力が高い)特徴があり、A型を持っていると酒があまり飲めないタイプとして知られています。以前に行った調査では、お酒が強い遺伝子タイプは、一般の方々に比べて、アスリートで割合が高いことも報告しています^{※4}。

近年の研究では、トップアスリートの遺伝子のタイプが高血圧などの罹患リスク(病気になるやすい)にも影響する可能性も示唆されており、学生時代にやっていたスポーツ種目や遺伝子タイプと健康についても研究を進めていく予定です。



活動量計



遺伝子採取キット

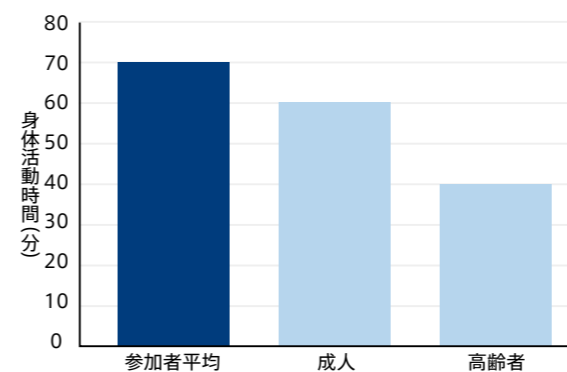


図1 1日あたりの身体活動時間(3メッツ以上)

※3メッツ以上:歩行以上の強度

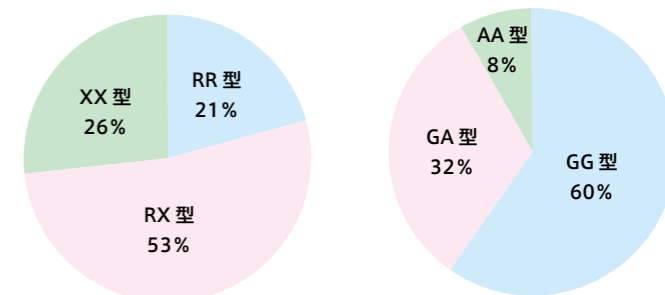


図2 調査参加者の遺伝子多型の割合(88名)

※1 厚生労働省:健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023 ※2 Kikuchi et al. European Journal of Sports Science.16: 694-701. 2016
※3 Saito et al. International Journal of Sports Medicine. 44(9):618-624. 2023 ※4 Kikuchi et al. Biology of Sport. 39(2):429-434. 2022

来年度は調査を拡大します!!

2025年度は、オンラインでのアンケート調査が行えるように準備をしております。(紙のアンケート調査を希望の場合、別途郵送します。)これまで以上にたくさんの卒業生の皆様の参加をお待ちしております。

また、活動量や遺伝子多型のフィードバックについては準備が整い次第、お送りさせていただきます。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

同窓会誌発行協力金について－御礼

「日體人」第12号にてお願いいたしました協力金につきまして、これまでに約1,500名の方々からご支援をいただきました。ここに皆様方のご協力に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込め、お名前を記させていただきます。

北海道ブロック

小池春雄、井戸英樹、鈴木則行、小谷麗子、小嶋丈幸、井戸柳子、前東昭、多田順一、前多正彦、松本紘一、上嶋勝子、井淵俊昭、関根喜和、今井清則、菅野良則、臼井義典、久保田博三、田辺瑞夫、鈴木一央、白川部籌夫、菊地興國、岩淵秀一、伊藤初男、三ヶ田紀夫、萩原英俊、岸田節子、上杉正三、棧邦雄、仲野英司、福土正敏、金田隆一、外館静代、榎本眞智子、林紀博、丹野寛、佐藤博明、磯貝正之、遠山裕生、阿部俊文、佐藤佐知子、目黒徹、中川尚之、長内邦男、秋野禎見、木村光江、田中勝義、中木克明、高島千恵、佐々木雅恵、小山恭弘、辻本誠一、岩瀬均、井戸利樹、深澤健、信清昭人、渡邊宏禎、菊地清司、山本憲志、畠山由記、關川輝之、斎藤嘉英、香川俊雄、遠藤大地、苫米地伸泰、山田雄熙、山木康平

東北ブロック

秋戸静子、山田弘、船水高志、横山正二、矢田治、小枝兼悦、春藤英徳、苫米地克彦、奥静子、栗村昭雄、赤石眞一、村崎正司、斎藤和子、西谷義廣、澤田晴美、田代美紀子、塩谷喜兵衛、工藤紳吾、奈良岡守、山谷由美子、野呂牧子、山村雄子、道川功、毛江田久雄、山崎澄子、梁田忠男、升屋文夫、金森幸志、餅田茂、芦田良子、栗田崇、半田祐毅、大野隆夫、柴田鐵四郎、成田道子、大塚三男、鎌田耕平、飯泉恵美子、小松幸門、尾形隆、角崎敏雄、小笠原眞理子、二田隆、中川忠博、大山裕一郎、小林早知子、黒田清志、柴田衛、鬼川美佐子、青柳正隆、関村幸子、佐々木千秋、前田真、佐藤洋、大沼一義、三浦英人、谷川原宏一、切替桂、藤木剛、片山貴光、佐々木信吾、成田郁子、熊谷洋、伊藤あゆみ、鈴木清次郎、村上光太郎、尾形潤、高橋徳江、遠藤忠臣、氏川愛子、斎藤三五、松田明美、小川節子、鈴木淳一、井関滋夫、奥山晴美、土門敦、金子尚、岡崎雪華、佐々木誠脩、大宮司昭倫、鈴木伸幸、岩山なつき、齋藤元希、村松圭、岡部文彦、夏井忠宏、佐々木信広、関内瑛、永山航、高山恭治

関東ブロック

永井薫、河田依子、石濱昌子、市川善章、鈴木定治、大貫友彦、坂本静、小倉培夫、小島益男、飯島稔、須藤正巳、赤澤稔、野口洋治、富島進、飯嶋万喜、富田功、菊池哲也、幾永昌英、川松貴弘、黒川英樹、小室大地、元木博紀、櫻井麻紀、石松稿紀、菊地雄登、大内翔貴、嶋田榛夏、相良摩州、高崎健介、岸明男、栗原恒夫、上环聡、大阿久誠矢、鎌田葉月、岩沢孝展、明石六郎、高橋義明、荒川シズ子、海野俊彦、角田正三、廣田誠、岡田恒雄、大谷雅洋、須賀弘二、河崎和代、前田シン子、橋爪俊夫、久保田忠夫、青木仁嗣、高橋忠、松岡久登、多胡英子、桐生直、柳岡政一、市川慶子、越石信次、三浦知哉、舟喜信生、遠藤仁、石井千代美、白石雅好、田中規王、

渡辺紀子、中野清治、大野浩江、瀧野千津子、土屋知子、篠宮剛、中嶋伸、田中稔、永嶋龍次、町田昶、渡邊隆洋、梅村寿一、明石正和、中田次夫、山本松枝、貳又保、荒川哲男、大野道夫、當間準三、小橋川和子、中野利一、磯部富美子、松島伸一、沖野英逸、中川浩子、小暮三恵、牧野竹子、原田康弘、久保正美、増満恵一、菅原康、杉浦正和、庄司一也、山角厚志、岩川泰己、井上卓、高橋良典、仲谷龍太郎、平澤淳、大村貴臣、秋山剛一、川嶋仁、朝倉工、加美山隆俊、小野木史絵、攪上耀、関口咲子、池田かすみ、飯嶋厚、寺澤晶尊、篠崎のぞみ、吉田隆晟、平澤凌、中西健太郎、荻原迪彦、鶴見修治、出口節、佐久間剛、宍戸進、瀧澤康二、大山象二郎、岡義彦、三輪正光、加藤栄一、箕箸博、白井由美子、戸田正明、軽米良臣、軽米満世、笈川徹、川中俊邦、山岸秀規、櫻瀬富美、久保田雅人、須藤静子、清水桂子、小路正和、木下江利子、小野寺修平、北矢宗志、染谷真梨子、平賀照康、鈴木沙苗、小菅由香、篠田和也、玉谷昂介、塙大和、皆川椎菜、富井嵩登、細谷龍生、田中一井、西森源太、延藤君雄、馬場勇、庄司高士、小尾宏子、碓井進、島田由明、河鍋衛、山崎正介、高嶋章、野中庸旦、宮崎美代子、奥田雄一、今井梢、柳井清文、須藤敬子、近藤光男、坂見敏夫、福田芳枝、山口光恵、高橋菊喜、吉村辰明、浅利敦子、桜庭清徳、安藤慶子、藤江和雄、赤堀実、村上みな子、鈴木正信、内田勲、清水正昭、新井經雄、鈴木敬子、角杉美恵子、藤野雅博、村中宏行、高松清、高田幸一、渡辺千恵子、日野喜美子、河野隆之、小林幹彦、倉持登、齊藤和子、茂木俊男、飯室治夫、飯田圭一郎、大石浩美、大越洋一、菅谷俊彦、笠井里津子、池田伸二、石澤浩美、瀬戸徳美、関根隆、島田広幸、高山和徳、太田久人、吉澤猛、益子久、清水健司、立岩京子、安藤こずえ、武岡イネス恵美子、山野井進治、下井浩司、水島貴裕、佐々木敏夫、瀧澤瑞記、坂見大吾朗、廣瀬元、脇若綾、神保幸次郎、大井和也、中原知美、正田秀志、皆川将章、角杉直美、大谷佳絵、丹羽優介、田村徳隆、戸崎奨吾、平野光家、浅沼航平、山寺海里、櫻井裕康、辻有富、平井将太郎、上村優佳、難波茉莉花、佐藤亮佑、柿沼圭佑、内藤拓利、山下玲也、河村紀花、島田小聖、吉越奏詞、小俣尚悟、矢澤宏太、工藤友記子、伊藤三重子、岩波和雄、宮根清、坂本正樹、高貫洋子、斎藤公男、眞如紀子、石塚武夫、佐藤鐵太郎、松田治廣、大澤宏子、明石一雄、上平雅史、小滝紘一、月岡靖夫、中島晴規、串間平三郎、今野睦夫、串間満子、川端重義、吉井和夫、藤原三津男、多胡恒治、榑原義弘、榑原泰子、高橋和志、小室正明、家城義明、松浪健四郎、森田淳悟、桑林一男、堀川博美、神藤昭嘉、塚越富夫、伊東せい子、小嶋啓道、千葉哲人、宮崎弘子、大沢興助、岩本正人、山村まゆみ、青木信子、長村成子、里見美彦、中村ふじ、山田一夫、荒木達雄、白井一正、杉崎勝之、鈴木偉、菊地武良、三田敏治、巴伸一、森末典子、早川正人、福永いづみ、西館健吾、高田佳朗、田口孝男、内藤通昭、高橋勝美、田中恵子、渡邊豊、市川明宏、湯山秀史、西山哲成、米山稔、草柳伸、西山千春、永田裕志、岡本安芸子、丸本和年、石原知名美、渡辺直樹、長友大、野村忠信、宇佐美大作、山本剛、岩崎賢治、森康敏、加藤純弥、細田元、三森紀貴、南部智之、

高梨浩三、新井辰雄、山下晋矢、菊池直樹、武田和也、藤田ひろ子、水島一成、熊谷瑛里、森邦俊、今関翼、松浦亮、須山香菜、宮川誠、高橋諒、松尾結衣、荒金育子、高橋瑞季、満留夕莉、宮澤弘美、中澤進、上野栄子、樋幹也、寺田義雄、横森巧、望月大和、都築和久、藤原良彦、山本秀治、有賀健、吉成謙、深沢一智、天野幸治、吉野正和、大島小枝、中村正仁、霜村孝、橋本祐亮、後藤拓也、家登美櫻子

北信越・東海ブロック

村山桂子、今西優美、金子峰、江端麻美、小島祥子、澤井友貴、岡田曹志、板屋清孝、瀧脇則子、浦田節子、福田正子、金川尚子、山口直次、末永金造、岸澤忠司、中沖克美、酒井春美、中野登、上田靖子、畑孝子、武野修治、粟田淳子、中川欣一、鎌仲正寿、森井康代、岩崎修、斉藤保志、松下優子、老月守、中山利恵、宮前仁、高嶋和彦、宮袋誠、池淵直人、野口貴史、濱林積鑑、山谷将史、田中笑伊、長崎桂子、三引義晴、川口信明、細川聰、村上哲夫、柿島誠一、山本外勝、小森勇、山村和恵、松井正浩、高沢智子、西上純一、高野史朗、山本泰子、上杉芳泰、櫻田精一、中田知那、畑本真吾、村上まり、室井正人、榎井義之介、金崎三恵子、三田村ナルミ、藤田忠雄、西内隆子、西村慶之、岡田明美、岡田盛、高島さつき、内山智江、中田あい子、小阪清吉、志々場修二、高岡桂、北川智津子、細川陽子、佐藤公豊、志々場祐太、川口翔、角田幸代、新井東洋夫、奈良井宏美、榑原進哉、井出忠順、勝野徹、小林武、中村和子、松本寿行、町田暁世、竹内義雄、依田正輝、小林敏彦、中島千明、中澤才幸、北村泰光、北村礼子、武井志志、菊池毅彦、小林光嘉、小林早百合、横林智子、牧原雅、麻原恒太郎、宮澤誠、田中健司、野口剛彦、田中和幸、柳川慎一、降幡明生、小林勇、唐木敏行、佐野秀一、木下智宏、桃井昌寿、寺澤涉、島田孝弘、堀川太一、山寺優作、長束保江、石川博義、永田重郎、赤堀隆治、渡邊佳洋、河村サダエ、河村俊彦、松山光志、水内義祐、吉田るみ子、栗原昌子、渡辺悦子、伊倉恒信、山田晃明、飯田明美、鈴木昌子、山下眞里、岩崎勝寿、大澤満里子、渡邊温子、鈴木ルミ子、和田賢一、市野光康、近藤伸明、砂山孝一、大池彰一、松島育治、榎本恵子、乾裕子、齋藤健二、林和代、佐々木禎、村松英子、笠井弘昭、渡辺正光、野崎敦子、佐藤隆夫、神谷昇吾、寺田勝美、荻祐享、平岩東、山下修平、永田健治、赤羽睦子、小林徹、木本恭嗣、藤井あや子、神谷香子、土屋小織、河村智可、本田正明、松永恵史、神谷皇徳、神谷待由記、宮川朋子、堀江直樹、浅野進之介、堀勤、本多整、金沢睦、坂上充也、岩倉和彦、桜井通治、鎌田隆代、西口昭徳、水野遼二、笈健司、今西文武、服部暢和、桑名成之、猶村七甫、水野和明、伊藤喜久治、成瀬博子、伊藤尋思、平松学、杉山裕二、高瀬則光、杉山正弘、吉田茂之、槇野均、青山光、青山勇二、井上友幸、石川鑽一、小川真一郎、小坂卓生、白井雅則、加藤好治、早川真澄、諸星明彦、杉山誠治、松井秀成、藤原照明、佐野浩史、山本常夫、村田義之、富田譲、浅井俊雄、友松信之、戸田粹子、磯村幸彦、山室晶司、黒神寿美、茅野典子、梶村明、則竹崇智、笛岡実、鈴木賢二、久保田幸一郎、武藤紀久、平山哲了、中嶋俊美、辻潤治、曾我栄作、中垣光弘、米山英津子、今井一三、長瀬朋彦、山本悟、小木曾剛之、藤井紀幸、吉森茂雄、大崎辰機、伊勢谷和男、宮崎雄三、山田源嗣、勝田利雄、柳田陽子、中西章、中島京子、矢野和司、井尻亜希子、高橋篤志、伊藤典明、内山朋大

近畿ブロック

花房房子、清水忠和、中嶋雅己、寺村眞雄、清水哲哉、木村清美、成田新治、小澤信一、伊藤公英、岸本英幸、森幸久、田中敦司、辻田明宏、岡弘樹、橋本祐伊知、作本正隆、井上朋子、国府哲也、中辻誠、中田秀人、杉村富雄、藤本務、志智貴美子、村上淳子、米山富士子、小川達二、渡部久美子、森令子、矢萩繁巳、河野真一、矢田博嗣、木下昭雄、渡部光昭、亀井慎作、佐伯洋子、川之上清、中嶋輝雄、片岡登志子、藤枝曜子、山下康夫、村上珠実、白井徹男、中村典子、津熊美智子、山田徹、長谷川浩一、岩谷元紀、梅田修二、松本淑子、安部耕司、白石俊次、太田拡志、渡邊宗治郎、新田賢一、岩井和代、岩井角夫、小林直也、吉川肇、山田修、坂井修、新宅幸憲、緒方勇二、正木仁、小須田良子、佐田末勝、宅間信夫、松浦義昌、齋藤好史、松田和久、岩下由利子、奥谷彰男、高橋渡、橋本裕之、寺辻啓介、城越幸一、小原伸也、山根義文、尾崎浩一、藤本浩、川口智之、辻孝博、坂本宏一、芝谷常司、岡田敦、朝田浩成、太田秀昭、岩井一師、高橋秀和、的場丈矩、連基徳、岩本晃司、横山聖、近藤静也、三戸口隆盛、樋口耀、佐藤光、常原健吾、田中大世、坂元たみ、花原節子、多久文則、西岡英明、松村郁弘、中村幸司、辻井雄亮、野呂正人、瀬藤栄津子、玉置克治、魚谷欣志、羽根千恵子、高嶋仁、田伏英世、山本宣史、木原康博、和中嘉弘、出口明子、貴志康弘、清水秀美、柴森千賀子、田邊浩二、平尾優子、岡村菜津子、南出大伸、池田匠、鈴木康夫、米山治三、田中克秀、小松實、森鼻崇明、小川紀代子、西村一信、松田憲明、板谷慧一、西原紀代子、光川敏郎、松平忠雅、阪本勝彦、三宅香、末井健作、菊尾昌典、三好廣子、福井勇雄、荻野確郎、石川裕子、大和川明美、中井重樹、野勢恵子、志方良博、渡川康子、宮内雄治、野村利光、高寄十郎、長谷川雅清、比嘉悟、西田秀子、波部正博、山口敏克、藤井晃正、前西義弘、荒野恭子、荒野吉之、飯田良平、寺本浩視、岡田勝広、渡邊宇一、内藤勝彦、田中政幸、谷川彰一、山本洋一、中谷契己、野口哲司、圓尾昌博、澤田政彦、久保敬、松浦初江、手塚広行、坂上明、松本敏尚、橋本智稔、小林立、高本真人、開田守、井上聡、原田宏子、赤堀幸夫、的場久剛、千村啓喜、山下裕慶、中野雅史、塩飽隆成、衣笠文人、中田勇貴、本長葵、吉本美和、石坂美緒、高見奈々

中国・四国ブロック

牧野紀史、高木敏行、川崎豊美、福島俊一、加藤憲雄、日下部みどり、福澤美恵子、後藤弥、北中邦江、森田明彦、堀江薫雄、日置健生、井山勝子、井山充弘、渡部治人、小豆澤盾、新宮和彦、福島弘、中田充繁、石飛誠治、嘉戸俊士、有田憲二、福岡康二、伊藤晶弘、岩城新一、山本和也、鐵口蓮、川中弘幸、大知啓軌、植岡英治、野村秀治、片岡元弘、西田稔、中本厚生、山根洋壮、三上剛、西川弘志、田平一晁、網本恵子、木村政美、土井敏正、竹本孝子、橋本礼子、谷口和子、田中和夫、花木良蔵、土肥怜子、山田信、岡本邦彦、倉岡克栄、堂本和昭、片山裕治、荒木和恵、正木文雄、堀江常登、水野克成、小田政典、古川昭生、高橋正行、賀川耕司、宇根昌範、田淵秀彦、川崎一弘、畠中和樹、細内正彦、因幡和昭、小山英士、谷口憲史、上村桂司、出口彰、宗像哲也、川本有美、小山光子、岡本耕治、辻寿子、中野繁、保手濱和益、曾根幹雄、山本憲司、竹内博行、熊谷謙次郎、重森昇、三浦秀行、羽田岳文、三木典子、釘屋毅久、服部融法、宗政徳道、山下幸浩、久保岡論司、中岡洋子、下和田翔平、

朝倉健、山本智貴、富島誠司、高田充、井澤竜二、吉規喜代二、山本恒夫、堀田誠、新田薫、岡崎泰信、岡村克巳、池元啓朗、香川八千代、武本雅勇、坂井信夫、桑原綾子、藤井玲子、桑原英雄、吉富依子、沖村冷士、武本喜久代、佐々木亘、江藤修三、渡辺靖祐、上成和子、瀬石勝美、益田財治、高祖嘉秀、河島信行、梅森雅広、原口富士夫、高屋英人、重国修、西山由美子、前田香津美、吉田博実、塚田拓司、藤井琢也、末廣和孝、鈴木三郎、吉水多加志、大浪定之、若林智、町田康男、原川信、大田敏典、叶山雅隆、山根浩一、堀田茂利、福永敬彦、矢原寛之、秋津拓郎、都倉裕士、黒田良治、青木泰斗、馬淵豊茂、丸與健一、上田善一、村井光夫、八木繁喜、曾谷浩隆、矢間雅司、茨木基良、中嶋宏彰、早雲智宏、小野純由、小池嘉彦、西川寛、渡部晴行、首藤昌勉、宇野由男、佐伯隆三、近藤司、音地忠志、清家千秋、城戸眞勝、藤原勝彦、桑原英昭、鎌田和平、増田和男、浜田良男、須山三陽、藤原英志、村上克也、兵頭龍哉、川崎俊彦、西村浩、林恭輔、山田千夏子、宇田龍司、水田敬二、中内英明、土居生夫、中島敏彦、高橋容子、吉岡成、岩崎次男、田所和仁、豊永浩幸、佐井智寛

九州ブロック

中尾友彦、西藤嶺、大石洋子、山崎廣光、今石貞夫、曾根田幸代、加来國代、安永郁司、古野修一、北崎晴美、平山晃、樋口龍之、緒方善政、岩本浩、牛島樹、福山勝久、西方昌美、古田福雄、梶屋とよみ、岡文恵、眞田澄恵、山田慎介、中富清美、秋峯良二、谷口孝文、高橋讓治、塚本宰三、小川琢治、平野清、志波芳則、柳昭博、八尋重昭、吉永俊嗣、春本文昭、江藤雅博、森山秀孝、澤田正義、荒木和謙、西亨子、今村よし恵、宮崎繁樹、坂本哲郎、小袋幾代、山本義昭、酒井一記、平位秀敏、新けい子、園田裕之、小袋是勝、山田耕二、原口洋一、大峯淳子、平野隆一、藤木政時、村上健二、上妻厚紹、福田安秀、吉田英徳、吉原隆、村岡靖雄、峯隆幸、城田尚一、佐々木健一、矢野咲子、渡邊透、北里暁子、松藤義文、井手口孝、三池龍太郎、名嶋正信、中溝直樹、玉置康博、藤田桂子、汐満由佳、

中山純治、園田照子、細島義騎、坂本健太、福島大喜、大久保光、櫻井朋泰、大久保義高、山下賢治、八田峯男、坂井充、吉田和治、吉田信代、牛島考信、林俊光、島一満、吉田智博、板山勝城、川西富喜子、田口美樹子、千綿勝彦、田村豊年、大内武彦、林田茂、山口茂乃、後藤登、嶋田レイ子、島内徹郎、野原征一、松本健治、寺井廣宣、五島豊八朗、伊藤義人、加藤一之、山川正毅、江頭光男、藤岡敬二郎、福貞能章、宮原照彦、奥野比呂志、下釜綾子、山川和則、北島重和、松本康明、井川晃治、熊野晃三、喜多龍昭、長門和治、松井伸英、小川土雄、松永六十四、外川陽一、齊藤清内、石田元彦、内橋正明、高田修治、廣島忠士、碓川勝光、宮成重文、中島香代子、小林昌彦、川津一芳、岩本康伸、堀高太郎、内藤謙二、甲斐義也、篠田勇斗、古賀久美子、宮路富貴子、高江律子、河野宗夫、金津弘毅、大林高春、大門傳、笹本勝義、前村眞次、島田雅州、林茂雄、高本啓功、野口一英、野田隆生、松尾修一、桑原秀文、吉良恵介、井手和洋、兼子春美、中松琢磨、松本弘二、松本富子、有馬伸明、竹原英治、白石良寛、伊豫富久、若松壽子、北山眞理、吉永公力、前野講紀、木村敏郎、西松策浩、興梠聖二、赤星秀子、斗高克敏、福島英次、宮本俊晴、高橋政敏、竹川まゆみ、西村浩二、那須法寿、村瀬直久、北原茂、平江公一、砂原松己、山田智己、緒方寿和、郡司祥、上山智也、野田真一郎、松崎優介、永田淳、西田志穂、高木良哉、村瀬文康、石田一貴、石田大河、黒田滯、林史仔、中武秀生、金丸正紀、竹井史旺、鈴木スメ子、押川尚生、猪股勝、重永晋吾、甲斐藤昭、児玉利光、丹生進一、平田文雄、有馬雅美、大西浩三、佐野真吾、前田翔壺、鶴水義広、甲斐章史、山口富美香、城間保孝、那須優一郎、山崎公平、湊光雄、渡辺和夫、東喜美雄、高須美穂子、中宮洋二、重枝和洋、田口七郎、黒木靖典、日渡良治、長井忠道、長井英子、木本洋一、濱崎忠人、今和泉省蔵、椋山伸也、田之上茂己、久保英行、吉永博明、黒木徳男、山崎洋一、益山厚、山田龍一、下拂豊志、吉元和枝、坂元耕作、外園清視、森田頼子、佃省三、篠原貞二、福嶋美文、上大田信也、有村孝志、中山恭平、泉博文、高附安仁、大山博文、米永源、津田大地、日高聖椰、小堀俊子、島袋光枝、新垣和子、赤嶺良光、菅間季弘、新田敏夫、大城昇、島袋晴美、柳原弘文、又吉伊吹木、比嘉朝壮



日本体育大学荏原高等学校

求めて学び、耐えて鍛え、学んで之を活かす

〒146-8588 東京都大田区池上8-26-1 TEL:03-3759-3291



日本体育大学桜華中学校 日本体育大学桜華高等学校

健康・努力・敬愛

〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-5-1 TEL:042-391-4133



日本体育大学柏高等学校

健康と信用は最高の宝

〒277-0008 千葉県柏市戸張944 TEL:04-7167-1301



浜松日体中学校 浜松日体高等学校

積志力行・清節篤行

〒431-3125 静岡県浜松市中央区半田山三丁目30番1号 TEL:053-434-0632



日本体育大学附属高等支援学校

正しく 明るく 仲良く

〒093-0045 北海道網走市大曲1丁目6番地1号 TEL:0152-67-9141



日体幼稚園

健康第一主義

〒158-0091 東京都世田谷区中町五丁目10番20号 TEL:03-3701-4450



日本体育大学医療専門学校

『温故啓新』
古きを訪ねて新きを啓く

〒158-0097 東京都世田谷区用賀2-2-7 TEL:03-5717-6161



同窓会誌発行協力金のお願い

今回の「日體人」発行にあたり、同窓会活動と母校の近況をお知らせするとともに会員相互の親睦を図るため、お届けいたします。本誌以降の誌面充実に向けて、引き続き協力金(2,000円)を募りますので、ご協力をお願い申し上げます。また、ご協力いただきました方々へは、会誌12号同様、年2回(7月・3月予定)学報NITTAIDAIをお送りいたします。

1. 同封の振込用紙にてご協力いただける場合(準会員を除く)

以前、協力金納入にご協力を賜りました方々は、払込票にご住所等の情報を印字、コンビニでのご入金が可能なるバーコードを表記しております。引き続き、ご協力いただけますと幸いです。

2. クレジットカードにてご協力いただける場合

クレジットカード払いにてご協力いただくことが可能となりました。

<https://salat.club/fee/nittaidai/>

※旧姓や学籍番号等、ご記載いただけますと助かります。

